

令和4年度別海町教育行政執行方針

教育長 登藤 和哉



I はじめに

「第7次別海町総合計画」の目指す将来像の実現に向けて、全ての町民が「ふるさとべつかい」の心を礎に、思いやりの心をもって共に支え合い、勇気を持ってチャレンジできる人材を育成する施策を、それぞれの地域の強みを生かして推進します。とりわけ子どもたちには、快活に次代を切り拓く力を育む教育を展開します。

また、新型コロナウイルス感染症による、さまざまな影響を乗り越え、目標とする社会を実現するために、町民が学びを通じて心豊かな人生を送ることができるよう、ポストコロナを見据えた多様な学びの保障に努めます。

II 教育行政に臨む基本姿勢

1 点目は「別海型CS」の活動の推進です。コミュニティ・スクールの具体的な活動を通じて「地域の子どもは地域が育てる」という理念の下、それぞれの地域コミュニティの強みを生かしつつ、学校・家庭・地域・行政が連携して子どもの豊かな学びや生涯学習を推進します。

2 点目は「社会の変化に対応した教育」の推進です。急激なデジタル技術の進化やコロナ禍などの社会の変化に対応し、快活に次代を切り拓くチャレンジができる「生きる力」の育成を軸として、ポストコロナを念頭に置き、各校が「チーム学校」としてより強い組織力を発揮して教育活動が推進できるよう、校長会との連携を図りつつ、諸施策を実行します。

3 点目は「ふるさとべつかい」を支える教育の推進です。

郷土の歴史や文化に誇りを持ち、町民一人一人の人生を豊かにするために、生涯学習

センター「みなくる」や各公民館等の社会教育施設を拠点とした学びを充実させるとともに、スポーツや芸術・文化を振興します。

III 主要施策の推進

1 生涯にわたり学ぶ社会教育の推進

1 点目は「生涯にわたり学ぶ社会教育の推進」についてです。

4 月には、生涯学習の核となる生涯学習センター「みなくる」が供用開始されます。

今後「みなくる」は「ぶら」と「青少年プラザ（旧マルチメディア館）」との3館連携を図りながら、全ての町民が、生きがいを持って暮らせる社会を実現するために、地域の絆を深め、町民が主体となり活力あるコミュニティづくりを通じ、生涯にわたって学ぶことができる拠点としての機能を高めていきます。

各公民館で開催していただいていた母親の学びの場である「乳幼児母親家庭教育学級（すくすく学級）」は「みなくる」完成に合わせて、子育て支援センター「はみんぐ」と事業統合します。それにより、家庭教育支援と子育て支援が有機的につながり、これまで

以上に親子とも健やかに成長できる環境づくりに寄与することを期待するところです。

その他、各公民館で行われている、小学生を対象とした「アドベンチャースクール」をはじめとする青少年スクール、高齢者の生きがいを高めるための場である「寿大学」や各種講座を通じて、いつでもどこでも、誰でも学べる環境づくりを進めます。

また、町民へより分かりやすく、身近な情報を提供するとともに、学習成果を生かす機会の充実を図り、人のつながりを大切にした地域コミュニティの形成を推進すること、地域や家庭、学校などにおける課題解決に取り組ま

す。

図書館では、地域の読書活動の振興を担うとともに、町民の多様な学習を支援する情報の拠点として、利用者のニーズの多様化に対応するよう努めます。

乳幼児期から本に親しむため「ブックスタート事業」を継続し、親子で利用しやすい環境整備を図り、さらなる利用促進を目指します。

また、学校と連携し「学校図書室」の環境整備を進めるとともに、授業で使用する資料の貸し出しや「わくわく読書会」などの学校訪問事業を実施します。

さらには「移動図書館車」の運行や上西春別中学校に設置している「地域開放型図書室」の充実に努め、読書率の向上を図ります。

2 生き抜く力を育む学校教育の充実

2 点目は「生きる力を育む学校教育の充実」についてです。

目まぐるしく変化する社会の中で、将来を担う子どもたちが「生きる力」を身に付けるとともに、人を大切にする力・自分を表現する力・チャレンジする力を育成することが大切です。

このことから、子どもた



生涯学習センター みなくる

ちは家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びると考え、昨年度、全8学校区で本格実施した「コミュニティ・スクール」において、各地域で特色を生かした取り組みを充実させ、地域一丸となつて子どもを育てる環境づくりを推進します。

幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であるため、引き続き教職員の研修を充実させ、保幼小中の一層の連携を図るとともに、コミュニティ・スクールと連携し「小中一貫教育」など、地域の実情に応じた学校の在り方について検討します。「別海町生きる力アッププロジェクト事業」は、子どもたちが「別海町の魅力を学び、別海町に誇りを持つこと」とその基盤の上に「自分の将来について自ら考え、行動できる力を養う」ことを目的に実施しています。

第3次の最終年となる本年度は、地域の自然や歴史、文化や伝統、産業などの資源を生かし、地域を知り、ふるさとを学び、ふるさとに愛着や誇りを育むことを通じて自らの人生を豊かに創り上げていく「ふるさとキャリア教育」を展開します。

「学びの土台づくり」においては、引き続き、書評合戦



教職員に対する講演会

である「別海型ビブリオバトル」をはじめとした読書活動を推進するとともに、月に1度の「別海町新聞の日」には、児童生徒一人一人に新聞を配布し、新聞を教材として活用した教育活動を推進することで、子どもたちの総合的な読解力向上に取り組みます。

「GIGAスクール構想」により整備した児童生徒一人一台の端末を活用して、教育方法の改善と充実を図ります。

各学校におけるインターネット環境を充実させ、これからのSociety5.0時代の予測不可能な未来を生きる子どもたちのため、授業や家庭学習等の場面において、タブレット端末やICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現して

いきます。

不登校やいじめ問題の解決に向け、教育相談の充実を図るため、引き続き学校と連携を深め、スクールカウンセラー「ふれあいるーむ」指導員、スクールソーシャルワーカーの積極的な活用を行います。

また、昨年度に設置した西部地区における「ふれあいるーむ」を機能的に活用し、不登校やいじめの解決に向けた対応を進めます。

特別支援教育の充実においては、支援を必要とする児童生徒が年々増加傾向にある中で、各学校が児童生徒を支える特別支援教育支援員をより効果的に運用できるよう見直します。

英語指導助手ALTについては、ネイティブな英語に触れ、国際理解教育を向上させるため、引き続き各学校に派遣します。また、幼稚園訪問を実施し、グローバルな視点に立ち、柔軟に対応できる心豊かな子ども育成を目指します。

新型コロナウイルスの感染が収束しない中で、自律的な学習に向かう姿勢の育成を図るとともに、保護者の負担を軽減するため、引き続き漢字検定、英語検定、算数・数学検定の受検料を助成します。

また、家庭学習などに利用

できるタブレットドリルを導入して子どもたちの主体的な学びを支援します。

学校給食センターでは、子どもたちが将来を通じて、健全な食生活を実践していくための「食育」を、各学校と連携し進めていくとともに、食材の地産地消等にも努めながら、安全な学校給食の提供を行います。

また、食物アレルギーを有する児童生徒にも、学校給食を提供するために、食物アレルギー対応指針の大原則に基づき、安全性を最優先するため、品目を限定して提供を行います。

子どもたちへの効果的な教育活動を行うために推進している「学校における働き方改革」は、学校閉庁日の拡充、部活動休養日の完全実施などの取り組みを継続実施するほか、在校等時間の分析結果を基に検討した実効性のある新たな取り組みを実施します。

地域を担う若者の育成においては、別海高等学校の普通科3年間の確保や酪農経営科生徒の増員を目的として、寄宿施設利用者への助成をはじめとした各種支援事業を継続実施し、地域に根差した高等学校教育の充実を図ります。

3 郷土愛と社会性を育む 青少年の健全育成

3点目は「郷土愛と社会性を育む青少年の健全育成」についてです。

本町の次世代の担い手となる、青少年の「夢の実現」と「目標の達成」を支え、豊かな社会性と「ふるさと」べつかいへの郷土愛を育むため、町ぐるみで施策を推進します。

ふるさと教育においては、学校等と連携し、スポーツ・文化活動や「加賀家文書館」をはじめとした社会教育施設や、新たに作成した社会科副読本を活用し、郷土愛を育む教育の充実を図ります。

健全育成と生活習慣の改善においては、引き続き町独自の「メディアコントロールシート」を活用し、子どもが主体的にメディアとの付き合い方を考える機会を設けるとともに、別海町生涯教育研究所において、児童生徒等の生活実態の調査研究を行い、今後の施策決定に必要なデータ収集に取り組みます。

また、これまで青少年の多様な体験を進める「べつかい子ども未来議会」や中高生を対象とした「ジュニアリーダー組織」の育成などに取り組みましたが、令和4年度からは、青少年プラザの改修

計画の策定などに中高生の参加機会を設け、地域の課題解決を目指すまちづくり活動を実践します。

4 地域に根ざし個性あふれる地域の芸術文化の振興

4 点目は「地域に根ざし個性あふれる地域の芸術文化の振興」についてです。

地域の芸術文化の振興においては、別海町文化連盟をはじめとした各団体への支援により、地域の芸術・文化の振興を図るとともに、貴重な文化財や本町の歴史を学び、理解を深める機会の充実を図ることで、郷土愛の育成に努めます。

史跡旧奥行臼駅通所をはじめとする奥行地区文化財は、道内外から多くの方々が見学に訪れており、引き続き情報発信を行うとともに「奥行臼散策デー」を開催するなど、地域の文化財を学ぶ機会の拡充に努めます。

また、3つの異なる交通遺産が集中する奥行地区を総合的に整備し、歴史観光スポットとして活用するため、奥行臼史跡公園の整備基本計画を2年間かけて策定します。

北海道天然記念物である「西別湿原ヤチカンバ群落地」

については、専門家による「保護対策検討委員会」での協議を継続し、保護対策と管理に努めるとともに、国の天然記念物指定を申請します。

また、日本遺産「鮭の聖地の物語」の構成文化財については、本町に関わるものも多いため、知名度を高めて観光客の増加につながるよう積極的なプロモーション活動を行います。

郷土資料館は、施設の老朽化が喫緊の課題となっており、引き続き整備方針を検討するとともに、町の歴史、文化や自然に関わる資料の収集、整理保管、調査研究を進め、展示物の充実に努めます。

また「ふるさと講座」「郷土学習出前講座」や「出前移動展」を積極的に開催し「ふ



西別湿原ヤチカンバ群落地

るさとべつかい」への郷土愛の高揚を図ります。

5 活力に満ちた地域をつくるスポーツの振興

5 点目は「活力に満ちた地域をつくるスポーツの振興」についてです。

全ての町民が、幼少期から生涯を通じてスポーツを楽しむ、健康づくりができる「町民皆スポーツ」の実現を目指します。

そのために、スポーツ協会等と連携をし、地域の特性やスポーツ施設を有効活用した、いつでも、誰でも気軽にできる、スポーツの普及を図ります。

また、スポーツイベントや各種教室を通じ、人と地域のつながりを深めるほか、障がいのある人も気軽にスポーツ活動に参加できるよう関係団体と連携し、パラスポーツを通して健康者との交流機会を検討します。

さらに、少年団等の指導者の育成と支援を行うことで、スポーツの振興とスポーツによるまちづくりを進めるとともに、別海町スポーツ選手後援会とも連携を図り、スポーツの発展に努めます。

また、部活動の地域移行に向けて、調査研究を始めます。



ニュースポーツとして注目される吹き矢

なお、令和3年度の別海町パイロットマラソンは、新型コロナウイルス感染症拡大により、前年に引き続き中止となりましたが、今後もスポーツ交流による人づくりとまちづくりのため、10月2日の開催に向け、多くのランナーの参加が得られるよう感染状況を見極めながら準備を進めます。以上が、令和4年度に取り組む重点施策となります。

IV むすび

教育行政執行方針の実現には、地域・学校・家庭・行政が一体となり、町ぐるみで取り組みを進めていくことが必要です。

別海町教育委員会は「ふる

さとべつかい」の心が支えとなり、心豊かな人生を送ることのできる町民の学びを実現するための施策を推進します。

とりわけ、子どもは町にとって重要な宝であります。教育、スポーツ、文化・芸術の世界は、人々を教え育み、知力、表現力、創造力を引き出して、人生を豊かにすることから、特色ある教育づくりを推進します。

ポストコロナを念頭に置き、地域や現場の声を重視して、さまざまな課題に対し、積極果敢に取り組むことをお誓い申し上げます。教育行政執行方針といたします。

•Society5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。

狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society2.0）、工業社会（Society3.0）、情報社会（Society4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。